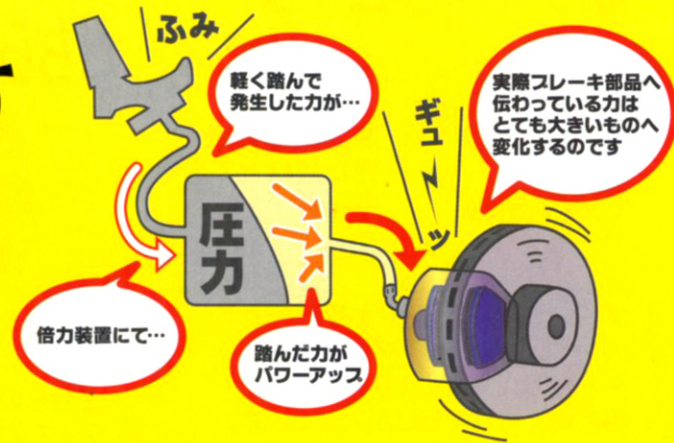


車はブレーキで走ります

止まれるからこそ安全に走れるのです

何気なく踏んでいるブレーキですが、どんな仕組みでどんな部品があるのかご存知でしたか？そしてなぜ交換が必要かご存知でしたか？全てはあなたの安全を守るためにあるのです。



【ブレーキのしくみ】

ブレーキには様々な部品が使用されています

前方のブレーキによく使用されています

《ディスクブレーキ》

ディスクローター

ピストン

液圧

キャリパーシール
(ゴム部品)

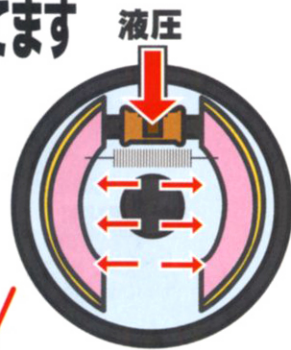
ディスクパッド

タイヤと一緒に回転しているディスクローターが、ディスクパッドに押され、摩擦が生じます。その摩擦によってブレーキがかかります。

後方のブレーキによく使用されています

《ドラムブレーキ》

液圧により、ブレーキシューが、ブレーキドラムに押し付けられることによって、摩擦が生じブレーキがかかります。



△はチカラの流れ

《ブレーキホース》

ホースはゴム製のため、長年使用していると硬くなりひび割れなどが起きます。最低でも、車検の3回に1回の交換をお勧めします。



様々な箇所へチカラを伝えています

《ブレーキフルード》

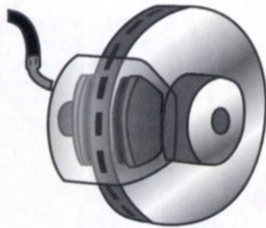
フルードはブレーキ部品へ止める力を伝えている液体です。交換基準は汚れ具合よりも液中の水分量です。古くなると、フルードは熱で沸騰しやすくなり、止めるための力が伝わりにくくなります。2年に1度の交換をお勧めします。

【ブレーキ豆知識】

《ディスクブレーキ》

タイヤをはずすと現れる円盤です。ホイールの隙間から見える場合もありますので、一度ご自分の目で確認してみることをお勧めします。

■ディスクローター



新品の場合は
見た目はとても
キレイ

どちらの場合も表面を研磨する必要があります



◇サビている場合

どちらの場合も表面上均一ではないため、パッドがあたる面積が偏ります。ディスクローターの状態によって、研磨できずに交換する必要もあり、凸凹したローターのまま乗り続けると、パッドも傷ついてしまい、ローター・パッド両方の交換が必要になる場合もあります。



◇表面がレコード状になっている場合

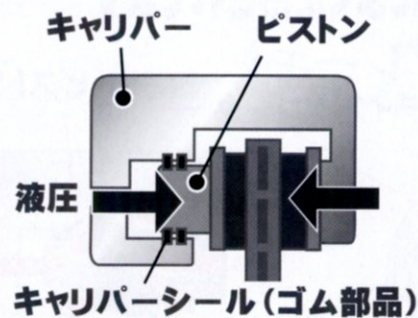
ブレーキ摩擦が発生すると、ディスクパッド同様に、ディスクローターも擦れて薄くなります。摩擦熱に耐えられずヒビが入ってしまうこともあり大変危険です。他にもローターに現れる症状をご紹介します。

■ディスクパッド



ディスクパッドはディスクローターを強く挟み込み、発生した摩擦力で車を止めている消耗品です。さらにパッドは薄くなるに連れて減りが早くなります。薄くなったパッドをそのまま使用しているとブレーキが効きにくくなったり、キーキーという異音を発し、部品本来の性能を発揮できなくなります。ローターも傷つきやすくなりますので、パッドの交換を進言された場合は、安全のために必ず交換をして下さい。

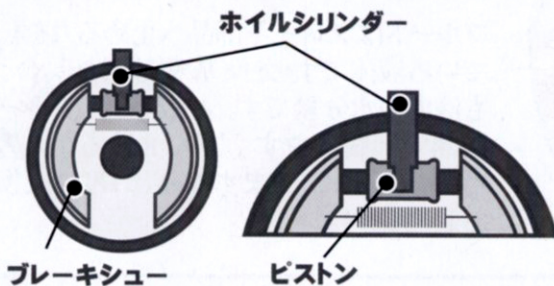
■キャリパーシールキット



フルードの液圧でピストンを動かしてパッドをローターへ押し付け摩擦を起こします。ブレーキペダルを離すとピストンは元の位置に戻ります。その際にピストンを戻したりする作業をサポートしているのがキャリパーシールです。また、フルードが漏れないようにフタの役目もしています。

《ドラムブレーキ》

■カップキット



ピストンの中には、シリンダーカップと呼ばれるゴム製の部品が装着されています。カップはブレーキフルードの液圧でピストンを動かす働きをします。またブーツについては、シリンダーの中に水やゴミが入らないよう、防ぐ役目をしています。

《その他のブレーキ作用》

■タイヤ



タイヤはブレーキと同様、クルマを止める上で重要な部品です。ブレーキをいくら整備しても、タイヤの溝が減ってしまっているのは効きも弱まります。細かいヒビがたくさん見える場合も同じです。これらは交換時期を知らせるものです。